

## ☆ディプロマ・ポリシー

### 〔人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー〕

#### (教育目的)

農学研究科では、多様な生命体や自然環境が持つ仕組みや働きを生物学、化学、生態学及び環境学をはじめとする様々な観点から理解させることに重点をおいた教育を行う。そして、その知見を「生物資源の確保と有効利用」、「持続可能な食の生産と消費」、「豊かな生活環境形成」、「生物文化多様性の保全・創出」、「健康問題への貢献」などに活用する能力を有し、関連する産業分野あるいは行政などで活躍できる高度専門職業人を育成する。加えて豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けさせる。諸外国からの人材や社会で活躍している人材も積極的に受入れ、研究者や教育者の養成・再教育を行う。

博士前期課程では、農学研究科の各専攻における専門的知識を修得するとともに、その知識に基づいた研究技術やプレゼンテーション技術を身に付け、主体的に研究課題から問題を抽出して論理的に解決へと導く能力を修得することで、国際的な視野を持ち、先端化・多様化する農学が関連する幅広い分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

博士後期課程では、農学研究科の各専攻における高度な専門的知識や技術を修得するとともに、高い研究倫理のもとに、総合的な視野や洞察力、独創的かつ論理的な思考能力、課題対応力、自立的な研究推進能力を身に付けることで、国際的な視野を持ち、先端化・多様化する農学が関連する専門分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

#### 〔ディプロマ・ポリシー〕

#### <博士前期課程>

農学研究科博士前期課程は、本研究科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに修士（農学）の学位を授与する。

1. 多様な生命体や自然環境が持つ仕組みや働きを生物学、化学、生態学及び環境学をはじめとする様々な観点から理解するとともに、それらを現代社会が抱える問題解決に応用する能力を身に付けている。
2. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する能力を身に付けている。
3. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 農学研究科の各専攻の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的視野で多面的に物事を考える能力を身に付けている。

5. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる能力を身に付けている。
6. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
7. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する修士論文の作成・発表を通して、学術論文を調査・解析し、研究成果を論理的に記述する能力及び発表する能力を身に付けている。

### <博士後期課程>

農学研究科博士後期課程は、本研究科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに博士（農学）の学位を授与する。

1. 多様な生命体や自然環境が持つ仕組みや働きを生物学、化学、生態学及び環境学をはじめとする様々な観点から理解するとともに、それらを現代社会が抱える問題解決に応用する能力を身に付けている。
2. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する高度な学術研究能力を身に付けている。
3. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を有する研究者として得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 農学研究科の各専攻の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的かつ多面的な視野と深い専門的学識を身に付けている。
5. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる高度な学術研究能力を身に付けている。
6. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
7. 農学研究科の各専攻の研究領域に関する博士論文の作成・発表を通して、学術論文を調査・解析し、研究成果を論理的に記述する能力及び発表する能力とともに、国際的な論文を執筆する能力を身に付けている。

## 応用生物科学専攻

### 〔人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー〕

(教育目的)

応用生物科専攻では、生物の多様な潜在能力を人類の生活に役立てることを目的とした教育を行う。主に植物を対象とし、食料や資源、有用物質の生産、確保あるいは環境保全

などに生物科学を活用し持続可能な社会の構築に貢献するための知識を修得させる。分子生物学に代表される遺伝子レベルの知識からフィールド科学までの幅広い範囲での知識に加え、データ科学にも重点を置く教育を行い、農業や食品・化学・環境・エネルギー分野に加え情報科学などの広範な領域で国際的な視野を持って活躍できる多様性に富んだ人材を育成することを目的とする。

博士前期課程では、仮説の立案、実験的な検証に基づく思考力、問題解決能力を身に付け、プレゼンテーションとコミュニケーション能力を修得し、主体的に問題の設定から論理的かつ実証的解決へと導く能力を修得することで、応用生物科学に関する幅広い分野で活躍する高度専門職業人や研究者を育成する。

博士後期課程では、博士前期課程で学んだ知識、技術に基づきより高度な専門知識や技術を修得し、独創的な問題設定と解決の能力、自立的な研究推進力、総合的な思考能力、課題対応能力を身に付けさせる。さらに、高い倫理観と社会的観点から広く物事を捉える能力を持ち、国際的に活躍できる能力を備え応用生物科学分野の進展に寄与する高度専門職業人や研究者を育成する。

[ディプロマ・ポリシー]

#### <博士前期課程>

応用生物科学専攻博士前期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに修士（農学）の学位を授与する。

1. 植物を中心とする生物の性質を分子から生態系のレベルまで統合的に理解することを基礎とし、生物の潜在力を食料や資源の生産、環境保全を通し持続可能な社会の構築に活かすための能力を身に付けている。
2. 先端化、多様化している応用生物科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことにより、技術者として必要な創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
3. 応用生物科学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 応用生物科学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的視野で多面的に物事を考える能力を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、応用生物科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、スキームなどによる表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
8. 応用生物科学の研究領域、さらには領域融合型研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する能力を身に付けている。

## <博士後期課程>

応用生物科学専攻博士後期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに博士（農学）の学位を授与する。

1. 植物を中心とする生物の性質を分子から生態系のレベルまで統合的に理解することを基礎とし、生物の潜在力を食料や資源の生産、環境保全を通し持続可能な社会の構築に活かすための能力を身に付けている。
2. 先端化、多様化している応用生物科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行う能力を身に付けている。
3. 応用生物科学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を有する研究者として得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 応用生物科学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的な視野と深い専門的学識を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、応用生物科学の高度な学術研究者として論理的な記述力、スキームなどによる高度な表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる高度な学術研究能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
8. 応用生物科学の研究領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を身に付けている。

## 生命機能化学専攻

### 〔人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー〕

（教育目的）

生命機能化学専攻では、あらゆる生物の生命現象を分子レベルで解析・理解し、さらに細胞・個体レベルへと展開して総合的に解析・理解する教育・研究を行うとともに、生物資源の効率的利用や環境修復への応用などに関する教育・研究を行うことで、国際的そして総合的視野に立ち、バイオサイエンスやバイオテクノロジーに関連する学術や産業の発展に寄与し、人類が直面している資源・環境・食・健康・生命に関する社会的課題に化学的視点から取り組み、挑戦する高い志を持った人材を育成することを目的とする。

博士前期課程では、生命機能化学における専門的知識を修得するとともに、その知識に基づいた研究技術やプレゼンテーション技術を身に付け、主体的に研究課題から問題を抽出して論理的に解決へと導く能力を修得することで、国際的な視野を持ち、先端化・多様化するバイオサイエンスやバイオテクノロジーの関連した幅広い分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

博士後期課程では、生命機能化学における高度な専門的知識や技術を修得するとともに、高い研究倫理のもとに、総合的な視野や洞察力、独創的かつ論理的な思考能力、課題対応力、自立的な研究推進能力を身に付けることで、国際的な視野を持ち、先端化・多様化するバイオサイエンスやバイオテクノロジーの関連した専門分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

[ディプロマ・ポリシー]

#### <博士前期課程>

生命機能化学専攻博士前期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに修士（農学）の学位を授与する。

1. あらゆる生命体を持つ多様な機能を化学的視点から分子・細胞・個体レベルで解析・理解するとともに、その機能を生物資源の効率的な利用、有用性・機能性の向上あるいは環境修復などへ応用する能力を身に付けている。
2. 生命機能化学の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する能力を身に付けている。
3. 生命機能化学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実験的に行い、得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 生命機能化学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的視野で多面的に物事を考える能力を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、生命機能化学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図表などによる表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
8. 生命機能化学の研究領域、さらには領域融合型研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する能力を身に付けている。

#### <博士後期課程>

生命機能化学専攻博士後期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに博士（農学）の学位を授与する。

1. あらゆる生命体を持つ多様な機能を化学的視点から分子・細胞・個体レベルで解析・理解するとともに、その機能を活用することで生物資源の効率的な利用や生産、有用性や機能性の向上あるいは環境修復などへ応用する高度な学術研究能力を身に付けている。
2. 生命機能化学の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する高度な学術研究能力を身に付けている。
3. 生命機能化学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実験的に行い、

独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を有する研究者として得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。

4. 生命機能化学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的かつ多面的な視野と深い専門的学識を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、生命機能化学の高度な学術研究者として論理的な記述力、図表などによる表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる高度な学術研究能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
8. 生命機能化学の研究領域、さらには領域融合型研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を身に付けている。

## 緑地環境科学専攻

### 〔人材養成の方針及びディプロマ・ポリシー〕

(教育目的)

緑地環境科学専攻では、生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を取り巻く環境に関わる様々な課題を緑地学や農業工学、生態学や環境学など幅広い学問分野から多角的に理解・解明するとともに、課題に対して具体的に対処するための教育・研究を行う。環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりによって形成される緑地環境の課題について、学際的に取り組むことができ、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とする。

博士前期課程では、緑地環境科学における専門的知識と技術を修得するとともに、その知識に基づいた研究技術やプレゼンテーション技術を身に付け、主体的に研究課題から問題を抽出して論理的に解決へと導く能力を修得することで、国際的な視野を持ち、多様化する緑地環境科学に関連した幅広い分野や社会の多方面で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

博士後期課程では、緑地環境科学における高度な専門的知識や技術を修得するとともに、高い研究倫理のもとに、総合的な視野や洞察力、独創的かつ論理的な思考能力、課題対応力、自立的な研究推進能力を身に付けることで、国際的な視野を持ち、多様化する緑地環境科学に関連した専門分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。

〔ディプロマ・ポリシー〕

### ＜博士前期課程＞

緑地環境科学専攻博士前期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに修士（農学）の学位を授与する。

1. 環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりによって形成される緑地環境が抱える多様な問題を幅広い学問分野から多角的に理解・解明するとともに、修得した専門的知識と技術を問題解決に応用する能力を身に付けている。
2. 緑地環境科学の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する高度な科学技術能力を身に付けている。
3. 緑地環境科学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 緑地環境科学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的視野で多面的に物事を考える能力を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、緑地環境科学の高度な専門技術者として論理的な記述力、図表などによる表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。
8. 緑地環境科学の研究領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する能力を身に付けている。

#### <博士後期課程>

緑地環境科学専攻博士後期課程は、本専攻の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに博士（農学）の学位を授与する。

1. 環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりによって形成される緑地環境が抱える多様な問題を幅広い学問分野から多角的に理解・解明するとともに、修得した専門的知識と技術を問題解決に応用する高度な学術研究能力を身に付けている。
2. 緑地環境科学の研究領域に関する学問的かつ社会的な問題を主体的に抽出し仮説を立て、研究課題を適切に設定する高度な学術研究能力を身に付けている。
3. 緑地環境科学の研究領域に関する専門知識に基づき、研究課題の検証を実践し、独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を有する研究者として得られた結果を適切に解析・分析して新規の結論に導くための創造的かつ論理的な思考能力、問題解決能力を身に付けている。
4. 緑地環境科学の研究領域に関連する幅広い関連学問領域についての専門知識と技術を備え、総合的かつ多面的な視野と深い専門的学識を身に付けている。
5. 研究成果の取りまとめを通して、緑地環境科学の高度な学術研究者として論理的な記述力、図表などによる高度な表現能力を身に付けている。
6. 英語によるコミュニケーション、プレゼンテーションの経験を通して、国際的視野を持ち、世界で活躍できる高度な学術研究能力を身に付けている。
7. 研究成果の適切な取り扱いや科学技術が社会及び自然環境に及ぼす影響について学ぶ

ことにより、社会の発展に貢献する高度専門職業人や研究者としての高い倫理観と責任感を身に付けている。

8. 緑地環境科学の研究領域、さらには広領域にわたる研究やプロジェクトを自主的、計画的に推進する高度な能力を身に付けている。



## ☆カリキュラム・ポリシー

### 〔教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）〕

農学研究科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、博士前期課程及び博士後期課程において、以下の教育課程を提供する。

#### <博士前期課程>

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、各専攻で共通教育科目を設ける。
2. 農学の研究領域に係わる先端かつ多様な専門知識・技能を修得するための各専攻において特論科目や特別講義の専門科目を開設する。
3. 農学分野における学術的あるいは社会的課題に対する情報を発信する能力を修得するため、日本語及び英語で行うプレゼンテーション科目を必修科目として開設する。
4. 農学領域に関する幅広い高度な知識を修得して、多面的に考察する能力と高度専門職業人として自身のキャリアに展開する能力を修得するため農学領域に関する概論やキャリアデザインについての専門科目を必修科目として各専攻で開設する。
5. 指導教員の下で各専攻の研究領域に関する特定の研究課題について研究を行い、主体的に研究を組み立て、適切に遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的かつ新規の結論に導くための能力を身に付けるため、必修科目としてゼミナールと研究実験の研究指導科目を開設する。

#### <博士後期課程>

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
2. 各専攻の研究領域に関する基礎的あるいは応用的研究を自ら立案して実行する多様な専門知識と技術を修得し、また総合的な視野に立ち研究成果を発信する独創的かつ柔軟性に優れた自立的研究能力を身に付け、研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力そして科学者としての倫理観と責任感を養成するため、必修科目として特別研究実験の研究指導科目を開設する。

農学研究科での各専門科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。また研究指導科目の学修成果は、研究課題への取り組み状況、研究結果に関するプレゼンテーション内容、教員や他の大学院生とのディスカッション能力などについて、研究指導教員を中心として総合的に評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明示する。

## (1) 応用生物科学専攻

### 〔教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）〕

#### <博士前期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2. 応用生物科学の研究領域に係わる最先端の専門知識・技能を修得するための特論科目や特別講義の専門科目を開設する。

3. 応用生物科学分野における学術的あるいは社会的課題に対する情報を発信する能力を修得するため、日本語及び英語で行うプレゼンテーション科目を必修科目として開設する。

4. 応用生物科学の研究領域に関する幅広い高度な知識を修得し、それを高度専門職業人として自身のキャリアに展開する能力を修得するため、応用生物科学の領域に関する概論やキャリアデザインについての専門科目を必修科目として開設する。

5. 指導教員の下で応用生物科学の研究領域に関する特定の研究課題について研究を行い、主体的に研究を組み立て、適切に遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的かつ新規性の高い結論に導く能力を身に付けるため、必修科目としてゼミナールと研究実験の研究指導科目を開設する。

#### <博士後期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2. 応用生物科学の研究領域に関する幅広い関連学問領域について、基礎から応用に至る専門知識と技術及び総合的な視野と深い専門的学識を修得させるとともに、独創的かつ柔軟性に優れた自立的研究能力を有する研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力及び科学者としての倫理観を養うため、必修科目として特別研究実験の研究指導科目を開設する。

## (2) 生命機能化学専攻

### 〔教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）〕

#### <博士前期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な

視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。

2. 生命機能化学の研究領域に係わる先端かつ多様な専門知識・技能を修得するための特論科目や特別講義の専門科目を開設する。
3. 生命機能化学分野における学術的あるいは社会的課題に対する情報を発信する能力を修得するため、日本語及び英語で行うプレゼンテーション科目を必修科目として開設する。
4. 生命機能化学の研究領域に関する幅広い高度な知識を修得して、多面的に考察する能力と高度専門職業人として自身のキャリアに展開する能力を修得するため生命機能化学の領域に関する概論やキャリアデザインについての専門科目を必修科目として開設する。
5. 指導教員の下で生命機能化学の研究領域に関する特定の研究課題について研究を行い、主体的に研究を組み立て、適切に遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的かつ新規の結論に導くための能力を身に付けるため、必修科目としてゼミナールと研究実験の研究指導科目を開設する。

#### <博士後期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
2. 生命機能化学の研究領域に関する基礎的あるいは応用的研究を自ら立案して実行する多様な専門知識と技術を修得し、また総合的な視野に立ち研究成果を発信する独創的かつ柔軟性に優れた自立的研究能力を身に付け、研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力そして科学者としての倫理観と責任感を養成するため、必修科目として特別研究実験の研究指導科目を開設する。

#### (3) 緑地環境科学専攻

##### [教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）]

#### <博士前期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
2. 緑地環境科学の研究領域に係わる先端かつ多様な専門知識・技術を修得するための特論科目や特別講義の専門科目を開設する。
3. 緑地環境科学分野における学術的あるいは社会的課題に対する情報を発信する能力を修得するため、日本語及び英語で行うプレゼンテーション科目を必修科目として開設する。

4. 緑地環境科学の研究領域に関する幅広い高度な知識を修得して、多面的に考察する能力と高度専門職業人として自身のキャリアに展開する能力を修得するため緑地環境科学の領域に関する概論やキャリアデザインについての専門科目を必修科目として開設する。
5. 指導教員の下で緑地環境科学の研究領域に関する特定の研究課題について研究を行い、主体的に研究を組み立て、適切に遂行し、得られた結果を適切に解析・分析して独創的かつ新規の結論に導くための能力を身に付けるため、必修科目としてゼミナールと研究実験及び演習の研究指導科目を開設する。

#### <博士後期課程>

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

1. 公正性の高い高度な研究を遂行する倫理観、国際的な研究協働を可能とする学際的な視野と深い教養、及び社会の課題を的確に捉え自らの研究成果を社会へ還元できる課題解決能力を修得するために、大学院共通教育科目を設ける。
2. 緑地環境科学の研究領域に関する基礎的あるいは応用的研究を自ら立案して実行する多様な専門知識と技術を修得し、また総合的な視野に立ち研究成果を発信する独創的かつ柔軟性に優れた自立的な研究能力を身に付け、研究者として必要な創造性、論理的思考、問題解決能力そして科学者としての倫理観と責任感を養成するため、必修科目として特別研究及び特別演習の研究指導科目を開設する。

## ☆アドミッション・ポリシー

### 〔アドミッション・ポリシー〕

今日、私たちは国内外で多くの課題に直面している。世界的な課題としては持続可能なエネルギー、資源及び食料の確保や異常気象に象徴される地球環境の悪化への対応などが挙げられる。国内に目を向ければ都市環境問題、食品ロス、健康寿命の延伸などの問題がある。こうした課題の解決に農学という学問領域は広範囲にわたり貢献できる。また、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）の達成においても農学分野の教育研究は重要な役割を果たすことが期待できる。一方で現在の社会の変革において大学院は、「知のプロフェッショナル」の育成を中心的に担うことが期待されている（「第4次大学院教育振興施策要綱」策定の方向性より）。そこで農学研究科では、国内外で求められている持続可能な社会を実現するために農学関連分野に関する高い見識と深い洞察力を有した人材を養成することを教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、農学研究科では次のような資質と能力、意欲を持った学生を求めている。

1. 農学について深い関心と理解がある人
2. 論理的な思考力と自ら学ぶ探求心を備えている人
3. 専攻する学問分野の基礎的能力と英語について十分な能力を身に付けている人

### (1) 応用生物科学専攻

#### 〔アドミッション・ポリシー〕

##### <博士前期課程>

応用生物科学専攻では、生物の多様な潜在能力を人類の生活に役立てることを目的とした教育を行い、食料や資源、有用物質の生産、確保あるいは環境保全などに生物科学を活用し持続可能な社会の構築に貢献するための知識を修得させる。分子生物学に代表される遺伝子レベルの知識からフィールド科学までの幅広い範囲での知識に加え、データ科学にも重点を置く教育を行い、社会の多方面で活躍できる人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った学生を応用生物科学専攻では求めている。

1. 多様な生物の仕組みを遺伝子、細胞から個体レベルの多方面から理解するための基礎的な能力を持ち、応用生物科学分野の発展に貢献する意欲を有する人
2. 応用生物科学に関する多様な研究領域の課題解決のための仮説を立て、その検証を実験的に行うことのできる人
3. 研究倫理ならびに社会における研究成果の適切な取り扱いを身に付けられる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 生物の持つ多様な性質を多角的な視野から理解するための幅広い基礎的なならびに専門的学力を身に付けた人

2. 自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための創造力や論理的思考力を身に付けた人
3. 円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を身に付けた人

#### <博士後期課程>

応用生物科学専攻では、生物の多様な潜在能力を人類の生活に役立てることを目的とした教育を行い、食料や資源、有用物質の生産、確保あるいは環境保全などに生物科学を活用し持続可能な社会の構築に貢献するための知識を修得させる。分子生物学に代表される遺伝子レベルの知識からフィールド科学までの幅広い範囲での知識に加え、データ科学にも重点を置く教育を行い、高度な専門性に加えて、幅広い視野、高い研究倫理、自立して研究できる能力を持つ人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った学生を応用生物科学専攻では求めている。

1. 多様な生物の仕組みを遺伝子、細胞から個体レベルの多方面から理解するための基礎的な能力を持ち、応用生物科学分野の発展に貢献する意欲を有する人
2. 応用生物科学に関する多様な研究領域の課題解決のための自立性を持って仮説を立て、その検証を実験的に行うことのできる人
3. 研究倫理ならびに社会における研究成果の適切な取り扱いを身に付けられる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 生物の持つ多様な性質を多角的な視野から理解するための幅広い高度な基礎的ならびに専門的学力を身に付けた人
2. 自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための創造力や論理的思考力を身に付けた人
3. 英語によるコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を身に付けた人

#### (2) 生命機能化学専攻

[アドミッション・ポリシー]

#### <博士前期課程>

生命機能化学専攻では、生物の持つ多彩な生命現象の解明と生物の持つ多様な生命機能の利用を目指し、化学を基盤とするバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する教育研究を行うことで、生命機能化学における先端的知識・技能及び研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った学生を生命機能化学専攻では求めている。

1. 化学を基盤とするバイオサイエンス・バイオテクノロジーを学び、現代社会における諸問題解決に貢献する意欲を有する人
2. 先端化、多様化している生命機能化学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実験的に行うことのできる人

### 3. 研究倫理ならびに社会における研究成果の適切な取り扱いを身に付けられる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 様々な生命体を持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで理解するための広範な基礎的ならびに専門的学力を身に付けた人
2. 自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための創造力や論理的思考力を身に付けた人
3. 円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を身に付けた人

#### <博士後期課程>

生命機能化学専攻では、生物の持つ多彩な生命現象の解明と生物の持つ多様な生命機能の利用を目指し、化学を基盤とするバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する教育研究を行うことで、生命機能化学における先端的知識・技能及び研究倫理を身に付け、社会の多方面で活躍できる人材の養成を行う。この教育を通して、生命機能化学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や洞察力、研究倫理、独創性、そして自立的研究能力を身に付けた人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った学生を生命機能化学専攻では求めている。

1. 様々な生命体を持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで理解するための広範な基礎的ならびに専門的学力を身に付けた人
2. 先端化、多様化している生命機能化学の研究領域に関して仮説を立て、柔軟性に優れた自立的研究能力によって、その検証を実験的に行うことのできる人
3. 英語によるコミュニケーションや研究倫理を身に付けており、国際的に活躍することのできる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 様々な生命体を持つ多様な機能を分子、細胞、個体レベルで理解するための高度な専門的学力を有する人
2. 自ら仮説を立てその検証を実験的に行うための自立性と論理的思考力を有する人
3. 円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を持つ人

#### (3) 緑地環境科学専攻

[アドミッション・ポリシー]

#### <博士前期課程>

緑地環境科学専攻は、人間活動も含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用によって形成されるエコシステムを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処するためのリージョナルサイエンスに基づく科学的知識と技術についての教育研究を行い、緑地環境科学の発展に寄与できる人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った

学生を緑地環境科学専攻では求めている。

1. 都市及び都市圏の持続的発展に寄与する緑地環境の保全と創成について深い関心と理解があり、社会の発展に貢献する意欲を有する人
2. 先端化、多様化している緑地環境科学の研究領域に関して仮説を立て、その検証を実践できる人
3. 研究倫理ならびに社会における研究成果の適切な取り扱いを身に付けられる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 大気、土、水、生物といった環境要素と生態系や人間生活との関わりを理解するための広範な基礎学力ならびに専門的学力を身に付けた人
2. 自ら仮説を立てその検証を実践するための創造力や論理的思考力を身に付けた人
3. 円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を身に付けた人

#### <博士後期課程>

緑地環境科学専攻は、人間活動も含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用によって形成されるエコシステムを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処するためのリージョナルサイエンスに基づく科学的知識と技術についての教育研究を行い、緑地環境科学の発展に寄与できる人材の養成を行う。この教育を通して、緑地環境科学における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や洞察力、研究倫理、独創性、そして自立的研究能力を身に付けた人材の養成を教育研究の理念としている。

このような教育研究の理念の達成・実現に向けて、次のような資質と能力、意欲を持った学生を緑地環境科学専攻では求めている。

1. 都市及び都市圏の持続的発展に寄与する緑地環境の保全と創成について深い関心と理解があり、社会の発展に貢献する意欲を有する人
2. 先端化、多様化している緑地環境科学の研究領域に関して仮説を立て、柔軟性に優れた自立的研究能力によって、その検証を実践できる人
3. 英語によるコミュニケーションや研究倫理を身に付けており、国際的に活躍することのできる人

以上に基づき、次の1～3の能力や適性を身に付けた学生を選抜する。

1. 大気、土、水、生物といった環境要素と生態系や人間生活との関わりを理解するための高度な専門的学力を身に付けた人
2. 自ら仮説を立てその検証を実践するための自立性と論理的思考力を身に付けた人
3. 円滑なコミュニケーションを遂行する能力と、英語についての十分な能力を身に付けた人